

牛久：学校周辺に見る自然

第64号 ひたち野西近隣公園

2012年1月28日発行

＜ 冬の野鳥観察 ～ 3. 留鳥（陸鳥） ＞

水辺公園、冬の野鳥観察シリーズ。今回も留^{りゅう}鳥^{ちよう}（一年中、同じ^{ちいき}地域にすんでいる鳥）です。



まずは、**コゲラ**。体長約15 cm。日本最小のキツツキです。「ギー、ギー」という鳴き声に見上げると、幹や枝を移動しながらエサを探すようすを見つけることができます。昆虫やクモをよく食べていますが、ヌルデやミズキなどの木の実も食べるそうです。上の写真では、木の幹に開けられた虫食いの^{むしくい}穴にじっと目を凝^{こら}らしていました。左の写真では、小枝につくられたまゆを、ぶら下がりながらつついていました。

幹に開けられた虫食いの穴に、じっと目を凝らすコゲラ（上）と、小枝にぶら下がりながら、まゆをつつくコゲラ（左）。



こちらは、おなじみの**ヒヨドリ**。「ピーヨ、ピーヨ」と騒^{さわ}がしく鳴き、木の実や昆虫、小型のカエルなど、何でも食べるというイメージがあります。枝にとまり、「ピーヨ、ピーヨ」とけたたましく鳴くヒヨドリ（左）。近づくと、パッと飛び立つ（右）。



「チュッ、チュンチュン」と鳴き、移動する時もえさを食べる時も、いつも群れて行動するスズメ。

次は、群れてとまるスズメ。人の生活と密着^{みっちやく}していて、山や人の住んで^{すんで}いないところでは、見られないそうです。農耕地に特に多く、ヒトが稲作^{いなさく}を始めたころからの付き合いのようですね。イネ科の種子などを好んで食べますが、繁殖期^{はんしょくき}には昆虫も食べ、ヒナにも始めのうちは、チョウやガの幼虫をたくさん与えるそうです。



最後に、カワラヒワのアップです。
かわら
河原や農耕地、草原に多く見られ、オリーブ^{かつしよく}褐色の体につばさの黄色、ピンクのくちばしがとても美しい小鳥です。

「キリリコロロ」と鳴き、キク科やイネ科などの種子をよく食べます。水辺の木^{すうわ}の枝に数羽で、シジュウカラやメジロと一っしょに群れていました。

【理科支援員 宮内】